

扁額で巡る大阪（大阪の扁額50選）

村田 幸雄

【目的】

扁額とは、一言でいえば「建物の目立つ場所に書や絵を書いて掲げたもの」である。扁額は寺院の山門や諸堂、神社の鳥居や社殿、茶室等で見ることが出来る。更に扁額には奉納額や文字看板等様々な形態のものが存在する。扁額は建物の一番目立つ場所に掛けられており、いわば「建物の顔」といえるが、従来からあまり注目されてこなかった。

扁額の揮毫者は、天皇から実業家、文化人まで様々。扁額が掛けられた時代、場所、目的も様々で、扁額から歴史・文化の一端を知ることが出来る。「扁額の中には歴史と文化が詰まっている」といえる。

大阪の扁額50選を選定し、扁額から大阪の歴史・文化を眺め、扁額の魅力を伝えるとともに、大阪散策の素材として提供したい。

【内容】

大阪の扁額50選を選定し、其々について、扁額の意味、内容を大阪の歴史・文化を交えてまとめた。ここでは紙面の関係上、例として、特に興味深い扁額をポイントのみ以下に列挙した。50選の詳細（要約）については添付資料を参考。

- 住吉大社の鳥居扁額「住吉神社」 何故、住吉大社に「住吉神社」の額。同じ扁額が東京佃島・住吉神社にもあった。
- 京阪電鉄・天満橋駅の「先覚志茲成」 宿願の大阪都心への乗り入れを達成し、大阪市の「市内交通市営主義」に風穴を開けた記念碑的扁額。
- 積川神社の鳥居扁額「正一位積川大明神」 白河上皇が初めての熊野詣の途中で揮毫した扁額。
- 常光寺の山門扁額「常光寺」 河内音頭と足利義満の関係を結びつける山門扁額。義満の寄進した木材の運搬の際の掛け声が河内音頭の原因となった。
- 万博記念公園・茶室万里庵の扁額「万里」 大阪万博で実現した表千家と裏千家、両家元の合作の珍しい扁額。
- 高津宮絵馬堂の「4代目坂田藤十郎襲名祈願絵馬」 231年ぶりに復活した上方歌舞伎の大名跡の襲名祈願絵馬。
- 生国魂神社の「奉納算額」 大坂の和算家・宅間流の奉納算額（復元）。

【結果（今後の考察含む）】

今後は大阪の扁額の個別の紹介から発展させて、テーマをしばり（例えば「大阪の奉納額」、「大阪の禅寺の扁額」のように）50選の扁額以外の扁額も含め紹介し、大阪散策の素材として提供したい。

○大阪の扁額 50選

(要約のみ)

(1) 大阪市内の扁額

①露天神社(お初天神)の「金刀比羅宮」と「水



天宮」(北区)

蔵屋敷の鎮守社が幾多の変遷を経て、露天神社の境内で存続。

②大阪天満宮の「鳳輦庫」と「神輿庫」(北区)



天神祭の変遷を語る扁額。

渡御に御鳳輦が加わったのは明治以降。神仏分離令が原因。



③天満天神繁昌亭の扁額「楽」(北区)



揮毫者は桂米朝。

明治時代の桂派の寄席「幾代亭」の扁額「楽」に由来。

④天神橋、天満橋の橋名銘板(中央区)



天神橋、天満橋は明治18年の大洪水で流され、その後ドイツ製の鉄橋に架け替えられた。天神橋、



天満橋の歴史を物語る橋名銘板。

⑤京阪天満橋駅の「先覚志茲成」(中央区)



揮毫者は当時社長の村岡二郎氏。意味は、「先輩の宿願である大阪

都心部との直結を果たす」。大阪市の「市内交通市営主義」に風穴を開けた記念碑的扁額。

⑥綿業会館の「経緯通達」(中央区)



揮毫者は大日本紡績社長であった菊池恭三氏。

意味は、「縦糸と横糸の織りなす調和で物事がうまくはかどる」日本の紡績業が世界一に向け躍進していた時代に書かれた額。

⑦吉野寿司の扁額「吉野鰯」(中央区)



揮毫者は比田井天来。鰯は鮓と同じもので、塩と米と魚を醸した保存食。今日のすしの原形。

⑧大阪企業家ミュージアムの扁額「弘成館」と「朝



陽館」(中央区)

大久保利通が五代友厚に贈った額。弘成館は鉱山事業を総括する組織、朝陽館は国産藍の事業で、どちらも五代友厚が創業した事業

⑨三木楽器・開成館の「書籍楽器大阪開成館 三



木佐助」(中央区)

曾て心齋橋筋は本屋の町であった。三木楽器のルーツは書店。

⑩高津宮の「4代目坂田藤十郎襲名祈願絵馬」(中央区)



231年ぶりに復活した上方歌舞伎の大名跡「坂田藤十郎」。額は、関西の歌舞伎絵師・穂東とよ国が描いた。

⑪高津宮の「仁徳天皇御製」(中央区)



仁徳天皇の高津宮、「高き屋にのぼりて見れば烟立つ民のかまどは賑わいにけり」。国史によれば難波の地には5度宮殿が造営された。

⑫法善寺横町の扁額(中央区)



藤山寛美が書いた横線が一本足りない「善」の額。一本足りない理由は諸説ある。

⑬高島屋の扁額「高島屋美術部」(中央区)



揮毫者は富岡鉄斎。

鉄斎を全国区に引き上げた高島屋美術部の額。

⑭阪神電鉄の扁額「萬方慶」(福島区)



大阪駅前の整備・近代化にともなう大阪地下延長線開通時に当時社長の今西與三郎氏が揮毫。

意味は「全ての人が慶ぶ」

⑮和光寺の扁額「放光閣」(西区)



長野・善光寺の本尊・阿弥陀如来が出現した阿弥陀池の中の島にある宝塔に掛けられた扁額。

⑯善福寺の「どんどろ」(天王寺区)



傾城阿波の鳴門の「順礼にご報謝」の名場面。「どんどろ」はこの辺りに屋敷があった大坂城代土井殿が詠ったもの。

⑰生国魂神社の「算額」天王寺区)



宅間流鎌田俊清の門人山口幸次郎が奉納した算額を復元したものの。

⑱四天王寺の「釈迦如来 転法輪処 当極楽土



東門中心」(天王寺区) 揮毫者は聖徳太子や弘法大師、小野道風、三井慶耀と諸説ある。意味は「釈迦が説法を説く所で、極楽の東門の中心である」。日想観を表す扁額。

⑲四天王寺庚申堂の表札「本邦最初庚申堂」(天王寺区)



日本最初の庚申堂。この庚申堂が庚申信仰の起源となった。

⑳清寿院の「関帝廟」(天王寺区)



神戸の関帝廟より以前にあった大阪の関帝廟。雑居地に住む中国人が中国風に改築した。

㉑広田神社の「赤エイの奉納絵馬」(浪速区)



赤エイを断って祈願すれば、痔疾に霊験あらたかと信仰された。赤エイは広田神社の神使。

㉒西方寺の「摂州合邦辻閻魔堂」(浪速区)



浄瑠璃・摂州合邦辻の舞台となった閻魔堂。俊徳丸の伝説。

㉓加賀屋新田会所の「楡園」(住之江区)



揮毫者は甲骨文字研究の第一人者の羅振玉。楡園の命名は西村天囚。

㉔住吉大社の「住吉神社」(住吉区)



揮毫者は有栖川宮熈仁親王。住吉大社は「延喜式」で明神大社、近代社格制度で官幣大社に列

格されるも、「住吉大社」と称したのは戦後。

同じ額が東京の佃島・住吉神社にもある。

㉕大念仏寺の「大源山」(平野区)



揮毫者は宝鏡寺宮徳嚴理豊禅尼。理豊禅尼は宝鏡寺の権威確保の

ため全国の寺社に扁額を揮毫。

(2) 北摂の扁額

㉖勝尾寺の大鳥居扁額「勝尾寺」(箕面市)



座主行巡が清和天皇の病気を祈祷により治し、勅額を賜った。

㉗万博記念公園の万里庵の扁額「万里」(吹田市)



大阪万博で建設された茶室の扁額。表千家と裏千家、両家元合作の珍しい扁額。

㉘郡山宿本陣(椿の本陣)の関札(大阪府茨木市)



郡山本陣には、参勤交代時に西国大名達が利用した際の関札が残っている。浅野内匠頭の刃傷事件時、赤穂城の開城の使者であった脇坂淡路守の関札もある。

㉙慶瑞寺の扁額と対聯(高槻市)



扁額(祥雲山)は隠元隆琦、対聯(濟道興時全身擔荷、祥雲現處遍界輝煌)は高泉性敦の揮毫。

㉚島本町立歴史文化資料館の「麗天館」(島本町)



揮毫者は近衛文麿。楠木正成・正行親子の桜井の駅跡の記念館に掲げられていた。

(3) 東大阪の扁額

㉛百済王神社の扁額「百済国王 牛頭天王」(枚方市)



百済王敬福は聖武天皇から枚方に土地を賜り百済王神社と百済寺を創建した。牛頭天王は、インド祇園精舎の守護神で、素戔鳴尊と習合された。

㉜大津神社の扁額「大津神社」(東大阪市)



大阪の生んだ聖僧・慈雲の揮毫した扁額。慈雲は正法律を説き、梵字研究の第一人者。

㉝近畿日本鉄道の扁額「日日新」(東大阪市)



近鉄奈良線・新生駒トンネル西坑口にある。揮毫者は当時社長の佐伯勇氏。出典は「大学」の「苟日新 日日新 又日新」

③④常光寺の山門扁額「常光寺」 (八尾市)



揮毫者は足利義満。義満が常光寺に復興の木材を寄進し、木材運搬の際の掛け声が木遣り音頭となり、河内音頭の原形となった。

(4) 南河内の扁額

③⑤葛井寺の「大阪紫雲講奉納額」 (藤井寺市)



「講」を組んで行われた西国三十三か所巡りの奉納額。

③⑥道明寺天満宮の「正一位太政 大威徳天神」 (藤井寺市)



菅原道真の怨霊を鎮める為最高の官位と尊称が贈られた。揮毫者は宝鏡寺宮徳厳理豊禅尼。

③⑦誉田八幡宮の「八幡宮」(羽曳野市)



鳩の形をした「八」の字、鳩は八幡神の神使。鳩字の書法は弘法大師にまで溯る。

③⑧叡福寺の「聖徳廟」(太子町)



揮毫者は岸信介。岸信介は聖徳太子の一万円札発行時の首相。

③⑨弘川寺の「西行堂」 (河南町)



似雲法師が尋ね当てた西行法師の墓の傍らに建てた西行堂の扁額。

④⑩旧杉山家の「生前富貴草頭露 身後風流陌上花」 (富田林市)



揮毫者は富岡鉄舟。意味は「現世での富や身分が高くても死んでしまえば草の上の露や路上の花のように儚いものだ」蘇東坡の詩の一節。

④⑪観心寺の「観心寺」 (河内長野市)



嵯峨天皇の勅額。勅額「観心寺」の異形の文字は御本尊を守護する金剛力士を表している。

(5) 和泉の扁額

④⑫水野鍛錬所の「鍛鐵降魔」(堺市)



揮毫者は法隆寺管長の佐伯定胤氏。水野鍛錬所は法隆寺五重塔の魔除けの鎌を制作した。

④⑬南宗寺の「甘露門」(堺市)



揮毫者は千宗旦の参禅の師・清巖宗渭。意味は「仏の教え、仏の境地に至る門」

④⑭岸和田本町「返魂丹」(岸和田市)



揮毫者は趙陶斎。返魂丹も反魂丹も「魂を蘇らせる」の意味。趙陶斎は近世日本第一級の書家。

④⑮久米田寺の扁額「隆池院」(岸和田市)



揮毫者は松平定信。隆池院は、行基が築造した久米田池を維持管理した寺院。

④⑯積川神社の「正一位積川大明神」(岸和田市)



白河上皇が熊野詣の途中、扁額の文字が拙いので、自ら書き直した。

④⑰水間寺の「奉納額」(貝塚市)



左甚五郎の流れと口伝される地車彫刻の名人・二代目高松彦四郎の木彫りの奉納額。

④⑱波太神社の「三十六歌仙扁額」(阪南市)



神を楽しませ、神の加護を祈願するために歌仙額を奉納した。土佐派の宮廷絵師土佐光成の筆になる。

(6) 大阪府域外の扁額

④⑲神応寺の扁額「神応禪寺」(京都府八幡市)



独庵玄光が揮毫し、淀屋四代目重當が寄進した。淀屋闕所の後五代目広當は八幡に住んだ。

④⑳小西酒造・ミュージアム長寿蔵の「白雪」(兵庫県伊丹市)



頼山陽は伊丹の酒、白雪、剣菱、男山を好んだ。